

刑法特講 I

科目ナンバリング CRL-307
選択 2単位

久保田 隆

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、重要な(裁)判例を題材に、1・2年次に学んだ刑法総論・刑法各論について、より深く学んでいきます。春期の「刑法特講I」では、刑法総論の主要論点に関する(裁)判例を中心に扱います。

2. 授業の到達目標

- ①刑法総論に関する主要な論点について、(裁)判例の内容を踏まえながら説明できる。
- ②刑法総論に関する最新の論点について、私見とその論拠を述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験(95%)および授業への貢献度(5%)によって評価します。授業への貢献度については、授業態度や担当教員からの質問への応答などをもとに判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱 刑法総論判例50! 有斐閣

参考文献

山口厚＝佐伯仁志〔編〕 刑法判例百選I〔第7版〕 有斐閣
成瀬幸典＝安田拓人〔編〕 判例プラクティス刑法 I 総論 信山社
井田良＝佐藤拓磨〔編著〕 よくわかる刑法〔第3版〕 ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

毎回授業の最後に翌週の授業の内容を予告しますので、上記教科書の該当箇所(特に、事案の概要)を読んで予習してください。刑法総論について簡単に復習したいという人には、上記参考文献(『よくわかる刑法〔第3版〕』)の該当箇所を一読することをお勧めします。

6. その他履修上の注意事項

- ・「刑法総論I・II」をすでに履修済みであることを前提に授業を進めます。
- ・授業では、レジュメを配布します。
- ・六法を毎回必ず(!)持参してください(小型のもので構いません)。
- ・質問や相談は、授業後の休み時間に受け付けます。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション 授業の進め方|刑法総論の全体像
- 【第2回】 因果関係 第三者の故意行為の介入|被害者の過失行為の介入
- 【第3回】 不作為 不作為による殺人|不作為の因果関係
- 【第4回】 故意① 未必の故意|認識内容の具体性
- 【第5回】 故意② 事実の錯誤
- 【第6回】 正当行為 取材活動|被害者の同意(同意傷害)
- 【第7回】 正当防衛① 正当防衛状況
- 【第8回】 正当防衛② 防衛行為
- 【第9回】 緊急避難 緊急避難状況|避難行為
- 【第10回】 責任 原因において自由な行為|違法性の意識の可能性
- 【第11回】 未遂犯 実行の着手|中止犯
- 【第12回】 正犯と共犯① 共謀共同正犯
- 【第13回】 正犯と共犯② 共犯関係からの離脱(解消)
- 【第14回】 正犯と共犯③ 承継的共犯
- 【第15回】 春期のまとめと期末試験